今知りたい、頑張る生産者の情報フリーペーパー

voL.
01

となりの農家さん

take
free

特集
スペシャルインタビュー
愛西市　中野菜園

13年連続収量UPの秘密に迫る!!

中野菜園
中野 悦宏

13年連続収量アップ

愛知県愛西市はミニトマトの産地としてそれほど大きくないかもしれないが、ここの四会(よつえ)部会には10軒ほどのミニトマトの大規模生産者がいる。

その四会部会の中で、ミニトマトの収量が13年連続アップしているのが中野菜園だ。もちろん面積自体が増えていることも一因だがこの間何回かあった不作の年でも安定した収量を確保し続けることができている。その理由に迫る中で「葉っぱの色」というキーワードが浮かび上がった。

若き日に追求した管理農業

社長の中野悦宏(以下、中野)は49歳。今年で30作目の農業経営者だ。現在は従業員1人と10人のパートさんに囲まれて、1.4ヘクタールの耕作地でミニトマトを中心に季節野菜の栽培をしている。

代々農家の家系に生まれ、愛情をもって農作物の生育を見守る「昔ながらの農業」を肌身で感じながら幼少期を過ごしていた。そんな昔ながらの農業が大切だと心の奥底で思いつつも、19歳で就農した時は父親が当時先端だった水耕栽培を導入しており、後継者として一刻も早く一人前になるために「管理する農業」を突き詰めようとしていた。

適切に管理をして収量を上げ、生計を立てるために、本を読んだり、インターネットで調べたり、たまたま聞いたことを信じたりして、ECやpHなどのことばかり考えて、闇雲に数字合わせに奔走した。当時の中野の頭の中は「どう管理するか」でいっぱいだった。しかし、いくら緻密に管理をしようとしても、一定の時期に葉っぱの色が黄色くなることなどが原因で収量アップに結びつかない。一人前というプレッシャーから中野の焦りはどんどん募るばかり次第に焦りがイライラに変わり、パートさんなど周りの人に対する管理も必要以上に厳しくなり、気がつけば誰も自分に付いてこなくなっていた。

さらに追い打ちをかけるように今から15年前、中野が34歳の時、父親が病気で倒れ、精神的にどんどん追い詰められ、もはや自分が自分ではないような感覚に陥っていた。

「私たちに任せて病院に行っておいで」

そんな中でも自分がすべて管理しなければならないと力みながら過ごしていたある日、あるパートさんから「私たちに任せて病院に行っておいで」と言われた。そのパートさんによるといつもエネルギーに満ち溢れて真剣に仕事をしているのに、この時期は傍らから見ていて落ち込んでいるのが明らかだった。パートさんは、社長が倒れた父親のそばにいたいのだろうと思い、自分たちの仕事が大変になることは分かりつつも、やれることはやろうと思ったと振り返る。

一見、何気ない言葉かもしれない。しかし、心理的に追い詰められていた中野にとっては、あまりに優しくありがたい言葉であった。それまでのように緻密に管理するのであれば、自分が現場から離れる訳にはいけないと思っていたものの、優しい言葉をかけてもらった仲間を信じて、任せてみるのもいいのではないかという気持ちに自然になることができた。

中野菜園のハウスの中の様子。15年程前までは通路まで幹が伸びているなど「ぐちゃぐちゃ」だったが、その後、パートさんが自主的にきれいにするようになった。

案の定、十分管理されなくなった畑は、次第に通路まで幹が伸びるなど、ぐちゃぐちゃになっていった。ある日の夕方、中野が病院から戻り、パートさん達が帰った後のハウスに入った。そこで、中野が目にしたのは、荒れたハウスの中でもしっかり実っているミニトマトと、それをパートさんが心を込めて収穫していたことが分かる跡だった。思わず中野の頬に大粒の涙が流れてきた。それまでは人にも、植物に対しても、あたかも中野が追い求める「数字」を達成するための道具のように扱ってきたがその時、心の奥底にしまい込んでいた「昔ながらの農業への想いが解き放たれるかのように**「農業の本質は、植物が本来持っている生命力を最大限に活かすべく、人が愛情を持って植物を育てることではないか」**と悟ったのだ。これを契機に中野の考え方は変わった。もちろん最低限の管理は必要だが、これまで数字のことしか考えていなかった中野にとっては「脱管理農業」と言っても過言ではないのかもしれない。

中野は細かいことに口出しをせず、パートさんの自主性を最大限尊重するように心掛けた。

するとパートさん達は、これまで以上に責任感と愛情を持って仕事に取り組むようになり、また収穫したトマトの品質も十分すぎるほどであった。

黄色い葉と二価鉄!?

一方、乗り越えなければならない課題も残っていた。これまでも直面していた一定の時期に葉っぱの色が黄色くなる現象への対策だ。特に12月ごろは、それまで旺盛に実をつけた反動が出て、それに冬の日照不足が追い打ちをかけて、元気がなくなり葉が黄色くなりやすい。

年によっては、それが最後まで引きずってしまう。そもそも葉っぱの色が黄色くなってまっては、エネルギーの源となる光合成ができず、植物が本来持っている生命力を活かすことができない。

中野は何年にもわたって様々な実験を繰り返していたものの、確信できる解決策が見当たらず、途方に暮れていた。

黄色くなったミニトマトの葉っぱ。鉄欠乏などが原因で色が変色する。

そんな中、たまたま二価鉄という成分によって、葉っぱの色が黄色くなる問題を解決できるという営業提案を受けた。

「鉄ではなく二価鉄!?」中野はそれまで聞いたことのない言葉であった。話を聞くと**植物に二価鉄を与えるだけで、葉っぱの色を改善させることができ、その結果、光合成を促進できる**というものであった。

当初は半信半疑であったものの担当者の情熱にも背中を押されて試してみると早速効果が表れた。そして、翌年も、その翌年も継続して効果が表れ、これまでのような厳密な管理をしていないのにも関わらず、長年悩み続けていた課題を思いもよらず解決することができた。

中野が愛用している鉄供給剤「鉄力あくあF10」植物に二価鉄を供給できるため、鉄欠乏などの症状に効果的。

葉っぱの色がもたらす相乗効果

加えて、中野にとっては思わぬ波及効果があった。中野の経験では、朝ハウスに入る時、一番気になるのは葉っぱの色だった。葉っぱの色がよければ気持ちが昂り、いい精神状態でその日の仕事に臨め、より生産性を高めることができる。パートさん達も同じで、葉っぱの色が安定するのに比例して、どんどん活き活きした表情になっていることに、中野は気付いた。活き活きした表情になったパートさんたちは、これまで以上に精力的にミニトマトを収穫しだした。

さらに、以前はトマトを収穫するのに精一杯で虫だらけでぐちゃぐちゃのハウスで作業をしていたが、より効率的に作業できるように自主的にハウスの中を整理整頓するようになっていった。すなわち、**中野菜園では、葉っぱの色が安定したことで、十分に光合成できき、元気なトマトがたくさん実るだけでなく、パートさんたちのモチベーションが上がり、年々効率的に収穫できるようになってきたのだ！**

今や、植物のエネルギーの源となる光合成を促進させることができる二価鉄は、中野菜園のすべてのミニトマト栽培に欠かせないものとなり、ハウスの中は毎年どの時期でもきれいな緑の葉っぱでいっぱいだ。

そして、なかなか面と向かって伝えることはできていないかもしれない、もしくは伝えようとしても冗談のように受け止められているかもしれないが、中野はそのミニトマトを収穫するパートさんたちに絶大な信頼を寄せて、仕事を任せている。それに応えるかのように、パートさん達も日々一生懸命働いて年々生産性を上げている。

中野が苦しい時に声を掛けてくれたあのパートさんは今年で19年目を迎える。今では休みの日でもミニトマトを収穫したいぐらいこの仕事が好きだと言う。

そのパートさん以外にも、今の中野には仲間がたくさんいる。

実際、中野菜園が13年もの間、連続して収量をアップさせたのには様々な理由があるのかもしれない。もちろん運もよかったのだろう。しかし、確実に言えるのは「葉っぱの色がもたらす相乗効果」がなければ実現しなかったということだ。むしろ、これこそ中野菜園が毎年収量をアップさせることができている理由と言えるのかもしれない。

中野菜園のブランドミニトマト「旬桃輝」中野菜園の愛情たっぷりに育てられたミニトマト。

中野菜園プロフィール

JAあいち海部所属。愛知県愛西市の総面積1.4ヘクタールの敷地で、農作物の栽培を行っています。メインの作物であるミニトマトは水耕栽培（ハイポニカ®方式※）で生産しています。生産だけでなく、生産品の加工・販売も行っており、各商品は「道の駅 立田ふれあいの里」や津島神社境内のマルシェ（毎月10日、20日、30日開催）等で購入できます。

中野菜園について詳しく知りたい方は下のQRコードまたは「中野菜園」で検索。

※ハイポニカは協和株式会社の商標です。

中野菜園 HP はこちら⇩

鉄力あくあ F10

植物は鉄分が不足すると、葉緑素を作れず、葉っぱの色が黄色くなり、光合成が十分に行えなくなります。それは土耕でも水耕でも同じです。一般的な資材の多くは肥料成分や微量要素がバランスよく配合されており、その中に鉄分も含まれています。しかし、それらの鉄分のほとんどは植物がそのまま吸収できない「三価鉄」です。植物は「三価鉄」を「二価鉄」にして吸収しますが、環境ストレスや成り疲れで弱った時には「二価鉄」に変換できなくなります。

「鉄力あくあ F10」は、植物がそのまま吸収できる「二価鉄」の資材なので、すぐに効果が期待できます。植物の鉄分補給について詳しく知りたい方は下のQRコードまたは「鉄力」で検索。

鉄力 HP こちら⇩

あとがき

中野菜園が作るミニトマトを知っていたとしても、その背景にこのようなストーリーがあるなんて知らなかったのではないかと思います。それぞれの農家さんが持つストーリーをご紹介することで「となりの農家さん」のことを少しでも知っていただき、少しでも農業生産のご参考になればと思っております。

となりの農家さん制作委員会

発行 愛知製鋼 0120-603-937